

特集「いわき水みらいビジョン2031」を策定しました！

策定の趣旨

水道局では、水道システムを健全な姿で次世代に引き継いでいくため、「新・いわき市水道事業経営プラン」を平成29年1月に策定し、各種事業に取り組んできました。経営プラン策定後も事業環境は刻々と変化しており、給水人口や水需要が減少し続ける中、更新需要が増加していることに加え、さまざまな災害を想定し、災害対策の抜本的見直しの重要性が増すなど、水道事業を取り巻く状況は大きく変化しました。

こうした状況を踏まえ、現行の経営プランの中期経営計画が今年度で終期を迎えることに合わせて、最適で災害に強い水道システムを構築するとともに、安全でおいしい水道水を安定的に供給できる体制と経営基盤を確立し、市民生活と地域経済を支えるライフラインとしての水道システムをより健全な姿で次世代に引き継いでいくことを目指して、「いわき水みらいビジョン2031」を新たに策定しました。

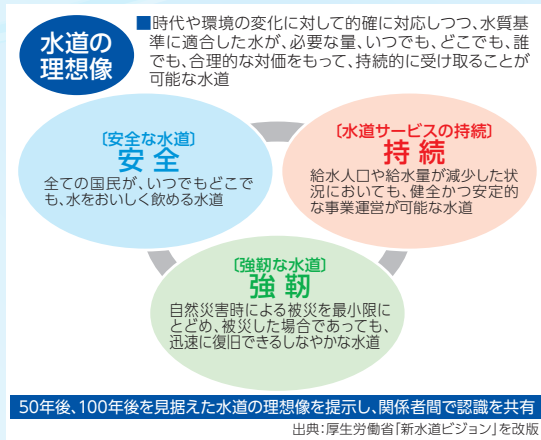


ビジョンの位置付けと期間

位置付け：水道事業経営の総合的な計画、また、国が策定を求める「水道事業ビジョン」と「経営戦略」を兼ねる計画として策定
計画期間：10年間（令和4年度から令和13年度まで）

基本理念と観点

- **基本理念**
本市水道事業の目指すべき将来像への歩みを着実に進め、水道事業を次世代に健全な姿で引き継いでいくため、従前からの基本理念である『未来に引き継ぐいわきの水道 ～安全でおいしい水を必要なだけ～』を継承します。
- **観 点**
国が「新水道ビジョン」に示す水道の理想像を実現するために掲げた「**安全**」「**強靱**」「**持続**」の3つの観点から、本市水道事業の課題を整理するとともに、目指すべき将来像の実現に向けた具体的な方向性を示していきます。



本市水道事業の課題

安全 ・安全な水の確保 ・適正な水質管理 ・給水装置等の適正管理	強靱 ・水道施設の再構築 ・自然災害等への対策 ・個別対策と相互融通によるバックアップ機能強化 ・水道施設の長寿命化対策 ・防災力の向上	持続 ・専門性の確保と組織力の強化 ・経営基盤の強化 ・地球環境への配慮 ・お客さまとのコミュニケーションの向上 ・水道サービスの向上と水道基盤の強化
---	---	--

いわき水みらいビジョン 2031 の構成と概要

基本理念	「未来に引き継ぐいわきの水道」 ～安全でおいしい水を必要なだけ～		
観点	安 全	強 靱	持 続
将来像	将来像 1 安全を確保し、おいしい水道水を供給できる水道	将来像 2 災害に強い水道システムを構築し、確実な給水ができる水道	将来像 3 供給体制の持続性を確保し、安定的な経営基盤が確立できる水道
方向性と基本方針	安全の方向性 安全でおいしい水道水の供給	強靱の方向性 最適で災害に強い水道システムの構築	持続の方向性 持続可能な経営基盤の確立
	基本方針 水源から蛇口までの統合的な安全対策の推進により、安心して飲める水道を目指す	基本方針 災害経験や将来の水需要を踏まえた、効率的で災害に強い水道システムを目指す	基本方針 本格的な人口減少社会にあっても、健全で安定的な事業運営を目指す

● 施策展開の視点

本ビジョンでは、「安全」「強靱」「持続」の方向性ごとに掲げた基本方針の下、12の施策の柱を設定し、柱ごとに体系的な視点でさまざまな施策（33の施策）や事業（66の事業）を展開していきます。

また、目指すべき将来像の実現に向けて、特に重要な事業として、令和4年1月に策定した水道施設総合整備計画に関連する9つの事業を「主要事業」に位置付け、重点的に進めることで持続可能な水道事業の確立を目指します。

主要事業 1 浄水場再整備事業

・長期的な水需要の見直しなどを踏まえ、水道システム全体の最適化、安定化及び強靱化を図るため、浄水場の再整備を実施するもの。

主要事業 2 水道施設更新事業

・施設の老朽化に適切に対応するため、更新基準として新たに設定した「標準使用年数」や「延長使用年数」に基づき、浄水施設や配水施設の計画的な更新を行うもの。

主要事業 3 水道施設耐震化事業

・災害時においても安定した給水の確保を図るため、対象施設の耐震化を実施するもの。

主要事業 4 水道施設津波・浸水対策事業

・津波や大雨などによる河川の氾濫が発生した場合においても、水道機能を維持し、安定した給水を確保するため、対象施設への津波・浸水対策を実施するもの。

主要事業 5 水道施設土砂災害対策事業

・がけ崩れ、地すべりまたは土石流の土砂災害が発生した場合においても、水道機能への被害を抑制し、確実な給水を維持するため、対象施設への土砂災害対策を実施するもの。

主要事業 6 水道施設停電対策事業

・停電が発生した場合においても、水道機能を確保し、確実な給水を維持するため、対象施設への停電対策を実施するもの。

主要事業 7 基幹浄水場連絡管整備事業

・平常時の効率的な配水運用を可能にするとともに、災害発生時などの非常時にも安定した給水を確保し、災害による影響（断水）を最小化することを目的として、浄水場水系間で相互融通体制を構築する連絡管等の整備を進めるもの。

主要事業 8 重要給水施設配水管整備事業

・災害時においても、救急医療機関等の重要給水施設への確実な給水を確保するため、耐震化された配水池から重要給水施設までの管路の耐震化を促進するもの。

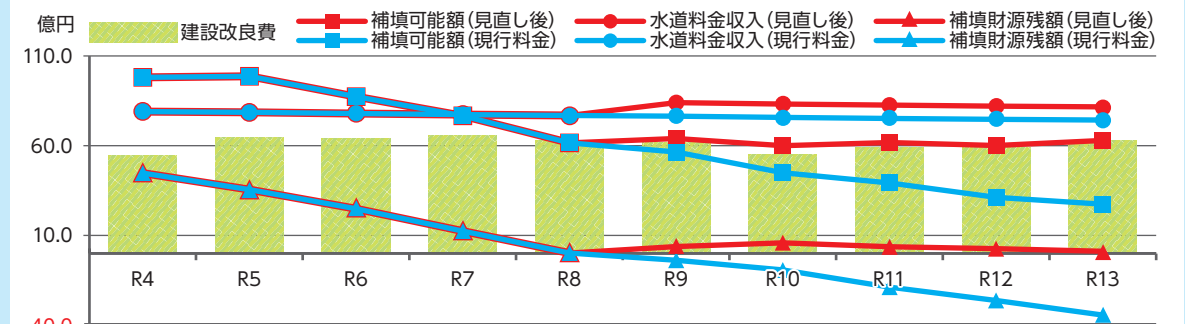
主要事業 9 老朽管更新事業

・管路の老朽化に適切に対応するため、更新基準として新たに設定した「標準使用年数」や「延長使用年数」に基づき、100年更新サイクルを目指し、管路の年間更新率1.0%（約23km）を目標に管路の更新を行うもの。

※ 主要事業の内容は、次号以降に連載する予定です。

本ビジョンでは、現在の社会情勢等に鑑み、10年間の計画期間のうち令和8年度までは、現行の料金水準を維持するものとしていますが、令和9年度以降は資金不足（収支ギャップ）が生じることから、令和8年度には事業の現状と課題等を踏まえた上で、収支均衡が図られた財政収支計画に見直す必要があります。

財政収支計画



収益的収支では、10年間の収入合計は885.6億円、支出合計は860.0億円で、純利益合計は25.6億円となる見込みですが、令和11年度からは欠損金（赤字）が生じることが見込まれます。

資本的収支では、10年間の収入合計は280.6億円、支出合計は798.4億円で、収支不足額合計は517.8億円となる見込みです。

資金収支では、補填財源（内部留保資金等）で補填しても令和9年度から収支ギャップが生じ、最終的な資金不足は34.5億円になる見通しです。

経営効率化の取り組み

水道局では、これまで小規模施設の統廃合等による維持管理費の削減、効率的な組織体制の構築や浄水場運転管理業務の民間委託、営業部門業務の包括委託による人件費の削減、企業債借入の抑制による支払利息の縮減など経営の効率化を進めてきました。本ビジョンでは、具体的な経営効率化の取り組みを施策体系に取り込み、今後も直面する課題や新たな課題に柔軟に対応していきます。

経営効率化の取り組み	事業名
水道施設の適正化・効率化	水道施設のダウンサイジングの検討、水道施設の効率的な運用、漏水防止対策事業
水道施設の更新需要等経費節減	水道施設のダウンサイジングの検討（再掲）、水道施設長寿命化計画の推進、発生抑制を主眼とした3Rの推進と適正処理
財源確保及び業務改善	将来の事業環境を見据えた水道料金制度の検討、財政収支計画の推進、企業債管理の適正化、アセットマネジメントの活用推進、財政支援等の要望と新たな財源確保の推進、新たな官民連携による業務改善の検討、業務改善の推進、ICT活用による業務の効率化の検討
効率的な組織体制構築	効率的な組織機構の検討と適切な人員管理、職員教育の充実と求められる技術力の確保

「いわき水みらいビジョン2031」の全文は、水道局ホームページに掲載しています。

お問い合わせ 経営戦略課 企画係

TEL 22-9310

